

1. 題目 「外来魚問題とチャネルキャットフィッシュ」

2. イタセンネット 水生生物センターサポートスタッフ

3. 放送大学大学院修士全科生 金子 健一

4. はじめに

5. 淀川のシンボルフィッシュ「イタセンパラ」の復活を目指す団体であるイタセンネットは、4月から11月にかけて、淀川の城北ワンド、庭窪ワンドで月3回（城北2回、庭窪1回）の環境保全活動を行い、その一環としてオオクチバスやブルーギルなどの外来魚の駆除を実施している。昨年11月、淀川の本流でチャネルキャットフィッシュが捕獲され、淀川のワンドにチャネルキャットフィッシュが迫ってきていることを改めて認識した。今後のイタセンネットの活動においてチャネルキャットフィッシュとの遭遇は避けられず、この機会にチャネルキャットフィッシュ及び外来魚について学ぶことが、今後の活動を有意義にすると考え、今回のプレゼンテーションに臨んだ次第である。

6. 材料と方法

7. 研究の対象とする生物（材料）は国外外来魚のチャネルキャットフィッシュである。研究対象地は霞ヶ浦の北浦、研究方法は外来魚関係の論文の渉猟と平成28年9月17日から平成28年9月19日に茨城大学広域水圏環境科学教育センターで全国の大学生向けの公開臨湖実習で行われた外来魚（チャネルキャットフィッシュ）調査である。

8. 結論

9. 現在、霞ヶ浦では外来魚問題といえば、オオクチバスやブルーギルによるものではなくチャネルキャットフィッシュによるものであるといわれるほど、繁殖力が強く、生態系被害、人的被害、経済的被害をもたらしている。淀川のワンドに侵入した場合、従来の在来魚と外来魚の関係に大きな影響を及ぼす可能性がある。

10. 今後の展開

11. 来年度以降のイタセンネットの活動では、チャネルキャットフィッシュとの遭遇、そして駆除を考えなければならないと思われる。

12. 参考文献（抜粋）

13. 遠藤友樹,金子誠成,猪狩健太,加納光樹,中里亮治,碓井星二,百成涉.茨城県北浦の沿岸におけるチャネルキャットフィッシュの摂餌特性.水産増殖 2015;63(1): 49-58.

14. 荒山和則,岩崎順.霞ヶ浦における近年の外来魚問題—チャネルキャットフィッシュの現状と駆除—.日水誌 2012;78(4):761-764.

15. 荒山和則.特定外来生物チャネルキャットフィッシュに捕食される魚類.日水誌 2010; 76(1):68-70.

16. 半澤浩美.霞ヶ浦におけるチャネルキャットフィッシュ (*Ictalurus punctatus*) の食性.茨

城県内水面水産試験場調査報告 2004;39:52-58.

17. 池田 徹、2007：外来生物が日本を襲う．青春新書、147-162.
18. チャールズ・S・エルトン、1971：侵略の生態学、思索社、223PP.
19. 日本魚類学会自然保護委員会編、2011：絶体絶命の淡水魚イタセンパラ 希少種と川の再生にむけて．東海大学出版会、133-137.
20. 日本魚類学会自然保護委員会編、2004：川と湖沼の侵略者 ブラックバスーその生物学と生態系への影響．恒星社厚生閣、87-98
21. 朝日新聞 2002「アメリカナマズ急増 漁業影響懸念、県駆除へ 霞ヶ浦/茨城」朝日新聞（2002年5月8日朝刊 茨城面）．
22. 瀬能 宏：「国内外来種とは何か？」日本魚類学会主催 市民公開シンポジウム「国内外来種問題の現状と課題」 2009年10月12日 東京海洋大学.
23. 国土交通省 2003「河川における外来魚対策の事例集」、4.
24. 平成 28 年度 茨城大学公開臨湖実習 2 資料「湖沼の外来生物問題の最前線ー外来ナマズ調査から理解する」．
- 25.